

第三者評価結果（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人福祉総合評価機構

②評価調査者研修修了番号

SK18278
19-A001
19-A002

③施設名等

名称：	大村子供の家
施設長氏名：	松本 厚生
定員：	48名
所在地(都道府県)：	長崎県
所在地(市町村以下)：	大村市原口町591-2
T E L：	0957-55-8319
U R L：	http://www.kodomoie.or.jp/

【施設の概要】

開設年月日	1942/9/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 大村子供の家
職員数 常勤職員：	42名
職員数 非常勤職員：	4名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	5名
有資格職員の名称（イ）	社会福祉主事
上記有資格職員の人数：	18名
有資格職員の名称（ウ）	保育士
上記有資格職員の人数：	12名
有資格職員の名称（エ）	精神保健福祉士
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称（オ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	認定心理士
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	本館・児童棟、福崎ホーム、坂田ホーム、松本ホーム、中尾ホーム
施設設備の概要（イ）設備等：	運動場
施設設備の概要（ウ）：	体育館
施設設備の概要（エ）：	地域交流スペース

④理念・基本方針

<p>【理念】 児童福祉の地域拠点として、地域に根ざした法人を目指す</p> <p>【基本方針】</p> <p>■養育方針 施設像：清潔で規則正しく、明るく和やかな家 児童像：思いやりの心を持ち、心身共に健康な子ども（健康・学習・奉仕・友情） 職員像： －たゆまぬ自己研修と協調性を持ち、職員間の伝達を密に図り、仕事に専念する職員 －児童と対話を密にし、児童と共によく遊び、共働き、児童を理解し、児童から慕われる職員</p> <p>■活動方針</p> <p>（1）家庭的養護（小規模化、地域分散化）の実践 （2）「子どもの生活」を中心としたスタッフの勤務 （3）各専門スタッフによる子どもの養育支援 （4）より多くの学び・経験を子どもたちへ （5）地域に根ざした施設を目指す</p>

⑤施設の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的養護（小規模化、地域分散化）の実践を積極的に進めています。 ・「子どもの生活」を中心としたスタッフの勤務を実践しています。 ・各専門スタッフによる子どもの養育支援に努めています。 ・子ども達により多くの学び・経験を積極的に実施しています。 ・地域に根ざした施設を目指しています。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2020/7/16
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2021/3/30
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度

⑦総評

【特に優れている点】

■ 福祉人材の確保と定着に向けた職員体制の見直しと環境整備

これまで職員の確保・定着が課題であったが、近年働き方改革を進め、職員研修やメンター制度の導入、タイムカードの設置や断続勤務など勤務時間の見直しの他、職員寮に限らない職員の住環境整備などに取り組んでいる。

また、研修委員会が中心となり、毎月行っている新人フォローアップ研修は、新人職員の定着に繋がっている。

職員体制では、棟リーダーを新たに設け、職員の状況に応じた業務管理に取り組んでいる。更に、メンター制度の導入にて、全職員を対象に本人が立てた目標について評価・反省し、ベテランの職員がメンターとなり、悩みや相談を聞き取る機会となっており、仕事上の悩みや課題の解決をメンターがサポートし、職員のモチベーションと質の向上に繋がっている。

まだ改善すべき点は見られるが、積極的に福祉人材の確保・定着・育成に取り組み、成果を上げていることは他に例を見ない優れた活動である。

■ 子どもを尊重した養育・支援の実施と計画・記録の連動

施設では、児童養護施設の小規模化が進み、地域の中で一般家庭に近い生活体験を実践する家庭的養育を行っている。子どもたちを学校へ見送り出迎えるまでを同じ職員が行ったり、直接処遇職員3人を目指すなど「子どもの生活」を最優先し、子どもたちの安定した生活環境づくりに努めている。

職員は子どもと接する時間が増え、日々の様子を記録した育成録は、生活面や学力面、情緒面など多岐に渡り分析している。子どもに関わる記録は、法人内ネットワークによってすべての職員が情報共有できる仕組みを整備している。

職員は、情報を基に一人ひとりの子どもの最適な道筋を確認し、自立支援計画書に活かし支援に繋げている。施設の子どもを尊重した養育・支援に向けた取組みは、常に前進しており特筆すべき点である。

■ 地域に根差した福祉施設としての貢献度の高さ

施設理念に、“地域に根ざした児童福祉”を掲げ、常に地域の福祉ニーズを収集できるよう努めている。法人では、地域の福祉ニーズに対応して、小規模保育園や認定こども園、放課後児童クラブ等展開しており、行政から依頼されることも多く連携が取れていることが確認できる。b&gおおむらを開設し、子どもたちの居場所づくりに取り組み、一般家庭の利用もさることながら、支援が必要な家庭への無償での支援を行っている。このような取組みから、法人内の連携を強め、地域の子どもたちの安心安全な環境づくりを目指していることが見てとれる。

また、地域の災害時の避難場所や保護者が新型コロナウイルスに感染した場合のPCR検査にて陰性が確認できた子どもの保護先として、地域や行政からの依頼がある等、法人及び施設は“地域に根ざした児童福祉”の理念に沿い、その使命の下に地域社会に貢献していることは地域住民の安心に繋がっており、特に優れている点である。

【改善が求められる点】

■ 小規模化・地域分散化推進にて生じる各ホームの支援内容の差

施設は栄養士を配置し、全ホームの食事の状況を管理している。ただし、急速に小規模化が進むことで、施設としての食に対する取組み状況に差異がある。毎日の食事は子どもの心の育ちや安定について重要な役割を担っている。施設ならではの良さを含め、栄養士を中心に検討を重ね、子どもが美味しく楽しみながら食事ができるよう取組みに期待したい。

また、看護師が随時各ホームを訪問しており、感染症予防対策の消毒液の補充状況や子どもの服薬状況を確認し、職員に指導している。ただし、ホームによって感染症予防対策の取組み状況が異なっている。施設として子どもの心身の健康を管理する上で、ホーム毎の取組状況を把握し差異がないよう、仕組みづくりに期待したい。

■ 施設退所後のアフターケアの取組み

進学や就職等の進路相談は学校で行うことが多く、施設では自立支援計画に退所に向けての支援内容を加えて作成している。また、子どもの希望に応じてアルバイトを認めており、時にはアルバイト情報誌等を見て職員が相談に乗るなど、一人ひとりの状況に応じた自立支援を行っている。

将来に向けて、就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業など、進路決定のための掲載的援助の仕組みなどの本人に適した情報提供を行っている。

ただし、副施設長はリービングケア、アフターケアについて、まだ取組みが不十分だと考えている。今後、自立支援コーディネーター、職業指導員等の配置・研修に力を入れ支援を行っていくことを検討中である。更なる取組みに期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

客観的な立場から施設の評価をいただくことは、今後の環境改善を図る上でとても重要と考えています。いただいた評価結果を踏まえ、今後も業務改善につなげていく所存です。

評価員の皆様におかれましては、児童養護施設における実情把握だけでも大変なことかと思いますが、評価の効率性をより高めるために、評価員の方が複数同時並行・役割分担での聞き取りや、個人の意見が評価にならないよう、より広範囲の聞き取りを経て、中立的な分析を踏まえた評価をいただけるよう今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>運営理念「地域に根差した児童福祉」、養育理念「健康・学習・奉仕・友情」を掲げ、地域と繋がりながら子どもや家族を支える地域の拠点としての役割を担っている。施設の小規模化、地域分散化が進む中、職員間の情報共有は大事なことで認識しており、毎日の朝会やラインでのやりとり、パソコン上の共有フォルダを介して状況を把握するなど、職員は共通意識をもって支援に取り組んでいる。</p> <p>施設長は月1回の全員ミーティングで理念について話しており、子どもたちと「ニコニコ・ペチャクチャ・バタバタ・ベタベタ」と愛情をもって関わるよう伝えている。理念や基本方針は要覧やホームページに掲載しており、子どもへの周知も図っている。</p>		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>施設長は大村市社会福祉協議会副会長を務めている。待機児童問題等地域が抱える問題を把握し、小規模保育園や認定こども園、放課後児童クラブ等展開し、地域の福祉ニーズに対応しており、行政から依頼されることも多い。社会福祉法人であり営利目的ではないため、国の動向に沿って支援を行っており、子どもの推移や利用率等予測を立て分析している。昨年度から地域小規模ホーム加算を取っている。</p> <p>施設は、子どもに良質かつ安心・安全な養育支援の実現に向け、事業の将来性や継続性を見通した経営状況が的確に把握・分析しており、優れた点である。</p>		

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

長崎県家庭的養護推進計画に基づき、施設定員や職員配置等見直しを実施し、大村子供の家10ヶ年計画に反映している。施設の経営状況や改善が必要な課題については、理事会で報告し情報共有している。
施設の経営状況を詳細に伝えるまでに至っていないが、ホーム長会議を通して、地域小規模養護施設としての職員体制や施設の建て替え、人材育成などの課題を職員に周知を図っている。近年、人材確保と人材育成を課題とし、業務見直しやメンター制度を取り入れるなど具体的に取組んでいる。

3 事業計画の策定

(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

長崎県家庭的養護推進計画に基づき、大村子供の家10ヶ年計画を作成しており、ホーム長会議で計画を確認している。10ヶ年計画では、施設の理念や5つの活動方針を実現する為の目標として、小規模化、地域分散化、高機能化に向けた取組みや人材育成等、目標を明確にしている。
今後、長崎県の里親支援について県の動向が決定するため、10ヶ年計画の見直しに取り組む予定である。
ただし、10ヶ年計画は、課題解決・改善に向けた内容となっているものの、数値目標や成果など具体的な内容に至っていない。年単位など中期的な計画を明確にし、実施状況の評価を行える内容となるよう取組みに期待したい。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

単年度の事業計画は、管理職が中心となって策定している。大村子供の家10ヶ年計画を策定したばかりで、単年度の事業計画との連動はこれからである。令和2年度は、“職員間のカバー体制強化・職員一人ひとりの人材育成強化定着・施設の多機能化・環境改善”に重点的に取り組むなど、事業内容を具体的に計画している。事業計画の中には“直接処遇職員3名配置”など数値目標を設定している項目もあるが、全般に定量的な分析・評価は不十分である。今後さらに具体的な計画策定へ繋げるためには、評価の在り方を再考することが望まれる。

(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画は、育成強化施設内の4つの委員会での取組みやホーム長会議での意見を反映している。これまで新人職員の離職率が高かったことを受け、研修委員会が新人研修プログラムを練り直したり、研修内にアイスブレイキングタイムを取り入れる等、職員の仕事に対するモチベーション向上や雰囲気づくりに取り組んでいる。ただし、事務局が取りまとめ、経営会議を開き事業計画に反映しているものの、評価結果に基づき事業計画を見直すには至っていない。今後の取組みに期待したい。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

事業計画は、個別の家庭状況に配慮が必要なため、保護者に周知を図れないケースがある。そのため、行事のお知らせなどは保護者に連絡しているものの、事業内容については具体的に伝えていないことも多い。今回新しいホームへ引っ越すにあたり、子どもたちに図面を見せたり家具や設備の要望や意見を募り、女性職員に女性の視点から家庭的で使いやすいホームとなるようアイデアを得ながら、引っ越し計画を実行している。事業計画について、周知を図れないケースもあり、子どもや保護者等が施設の意図を共に理解できるような工夫に期待したい。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

施設では、職員一人ひとりが施設の理念や基本方針に沿って半年ごとに目標を設定し、副施設長やリーダー等上司であるメンター職員が各職員の目標達成に向けて指導や評価を行っている。年2回個人面談があり、チャレンジシートを用いて評価を行っている。半年ごとの振り返りは養育の質について自問自答する機会となっており、評価内容を次の目標に反映することで、職員の質を高め養育・支援の質の向上に繋げている。3年に一度の第三者評価受審後は、評価結果を共有フォルダにて全職員が閲覧できるよう整備している。養育・支援の質の向上に向けた取組みを職員参画の下に実施し、組織的に且つ積極的に取り組んでいる点は施設の優れた点である。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

第三者評価による施設の重要課題は文書化し、共有フォルダにて全職員で共有している。評価結果に基づいた取り組むべき課題については、ホーム長会議や各委員会で改善に向けた話し合いを行っている。
重要課題として挙げたリービングケアとアフターケアについては、退所後にさまざまな事情で再入所するケースへの対応や子どもの就学就職に向けての支援などがあり、担当職員の負担が多い。職業指導員の配置について県と協議するなど、解決に向け取り組んでおり高く評価できる。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

施設長は自らの役割と責任について、機関誌“きっずうえいぶ”に掲載し表明している。今後は権限の一部を副施設長に譲渡し、トップダウン型からボトムアップ型へと移行することで、職員の意見を吸い上げる体制づくりを目標としている。
施設では、大舎制から小規模化、地域分散化へと施設形態が移行していくことにより、各ホームが孤立化することを懸念している。そこで、全体調整職員と各棟リーダーが中心となって職員の悩みや様子を把握できるよう職員組織を編成し直している。副施設長は各委員会活動での話し合いを注視し、マニュアルの見直しを行っている。有事の際の役割分担や責任の所在については、夜間緊急対応フローチャートにて明確化している。施設長、副施設長が、自らの役割や責任の下、運営に努めていることは特筆すべき点である。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設長は大村市の社会福祉協議会の副会長を担っており、遵守すべき法令の理解や取引業者・行政との関わりが適切に行われている。法令を遵守する上で疑問や課題が生じた場合は、施設の委託弁護士に相談している。施設では、懲戒権に関わるしつけと体罰の違いについて、子どもの問題専門の弁護士による職員研修を毎年行うなど、職員に対する勉強会を行っていることは大いに評価できる。
また、労働基準法遵守の観点から、職場にタイムカードを導入している。就業規則の変更は、職員代表の承認を得て掲示板に掲示しており、職員に遵守すべき法令等の周知を図っていることが確認できる。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設長は、長年の経験から施設における養育・支援の質の向上について自己研鑽を積み、理念や基本方針の実現に向けて確固たる信念を抱いている。施設長は、施設の小規模化・分散化に伴って子どもと直接関わる機会が減少していることや現場職員との思いのすり合わせが難しくなったことを課題として捉えている。そこで、副施設長が施設長と現場職員の橋渡し役となって指導する体制を整えている。研修の充実を図り、メンター制度を取り入れるなど、養育・支援の質の向上に意欲をもち指導力を発揮していることは優れている点である。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設長は、施設が目指す支援を具現化し、質の高い養育・支援の実現を図るため、人員配置等を検討しているところである。また、タイムカードの導入や職員寮の設置等、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。中でも直接処遇職員3人確保を強化している。また、施設の分散化に伴って財務面の検証を行い、職員給与など経営改善へと取り組んでいく姿勢が見て取れる。これらのことをホーム長会議でリーダーに伝え、職員全体で同様の意識を形成できるように取り組み、指導力を発揮していることは高く評価できる。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○
【コメント】		
<p>「子供の家の職員像」に“児童と対話を密にし、児童と共によく遊び、共働き、児童を理解し、児童から慕われる職員”とあり、人材確保と職員育成の方針が確立している。</p> <p>施設では人員配置等を検討し、ホーム直接処遇職員3名体制、職業指導員・一時保護専門職員配置を目指し取り組んでる。近年、児童養護施設の人材確保は困難であり、必要とする専門職員、人数などの計画を基にハローワークにも登録して職員を募集しているものの、計画的な確保は難しいと感じている。</p> <p>シルバー人材センター登録者や子育て経験のある人に食事づくりや宿直担当を担ってもらうなど、子どもたちにより家庭的な環境に接してもらえよう、広く人材確保に努めている。</p> <p>職員が家庭の事情などで職場での勤務が困難になってきた場合は、系列の認定子ども園を紹介するなど困難を解消している。また、職員の定着に関して、職員研修やメンター制度の導入、タイムカードの設置や断続勤務など勤務時間の見直しの他、職員寮に限らない職員の住環境整備など支援している。このような見直しから、職員離職率が減っている。</p> <p>施設では体制は整っているものの、その時々的情勢にて変化する側面がある。文書としての計画はないが、必要な福祉人材の確保・定着などに努めていることが確認できる。</p>		
②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○
【コメント】		
<p>法人理念・基本方針に基づいた「子供の家の職員像」がある。就業規則や職員マニュアルに期待する職員像を明示し、全体会で周知を図り職員自らが将来像を描いて日々研鑽するよう促している。職員は、チャレンジシートを用いて目指す職員像に基づく目標を設定し、自己評価を行っている。</p> <p>今年度はメンター制度を導入し、棟リーダーが職員と面談し職務に関する成果や貢献度を評価している。併せて異動や求職希望の意向などを把握している。施設は就業規則で人事基準や給与規定を設けており、社会保険労務士の指導・助言を得て、総合的な人事管理を行っている。</p>		

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員の就業状況や意向の把握などの責任体制は、職務分掌表において確認できる。棟リーダーが、職員の日勤希望、時間外労働時間など勤務状況をまとめ、副施設長が全体の労務管理を行っている。
 定期的に職員の有給休暇取得、時間外労働などのデータを確認し、法律により規定された有給休暇5日取得が下回る場合は有給休暇を取得するよう促している。リフレッシュ休暇制度、育児休暇、介護休暇など、職員のワークライフバランスに配慮した制度が確立している。また、福利厚生センターの活用を職員に促すなど総合的な福利厚生に取り組んでいる。
 施設では、働き方改革の実現に向け、タイムカードによる労働時間の管理、リフレッシュ休暇などの有給休暇取得など体制を見直している。特に、住み込み制度や時間外労働の見直しは、職員の働きやすさにも繋がっており、特筆すべき点である。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設の期待する職員像は“児童と対話を密にし、児童と共によく遊び、共働き、児童を理解し、児童から慕われる職員”であり、明示していることが見てとれる。
 施設では、メンター制度を導入し、チャレンジシートを基に年2回、棟リーダーが職員との個人面談を実施しており、特に新人職員に対してメンター制度の導入は効果的であったと評価している。
 ただし、チャレンジシートを用いて中間面接を行い、進捗状況を確認しているものの、目標管理という観点では模索中である。
 現時点では棟リーダーが面談するに留まっており、最終的には施設長又は副施設長の面談も含めた目標達成に向けての体制整備が必要だと思われる。今後の取組みに期待したい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

「子供の家の職員像」を明示している。また、職員像の中に入職から3年と3年以降と分けて職員の姿を具体的に明文化している。

施設には研修委員会があり、委員会では年間研修計画を検証しており、今期は新人研修の内容を大幅に見直している。毎月行っている新人フォローアップ研修は、本人が立てた目標について評価・反省し、また悩み相談を聞き取る機会となっており、新人職員の定着率に繋がっている。

施設では、県外も含めて外部研修に参加しており、リーダー職員に限らず、新人職員や調理職員も外部研修へ参加できるよう計画している。研修委員会では場当たりの研修から継続性・体系化した研修を行っていきたいと考えている。外部研修は、職員間の交流・リフレッシュも兼ねており、他の施設の職員と交流を図ることで、自身の施設の現状が明らかになり、本人の目標等に繋がっている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

今年度、職員の教育・研修体制に関して大幅な見直しを行い、環境を整備している。

棟リーダーやそれぞれの専門分野の職員が能力を活かし、情報収集と共にスーパービジョンとしての体制を形成し、組織力の向上に努めている。

職員研修は、勤務年数3年未満と3年以上で研修内容を分け、階層別を実施している。休憩時間を利用して研修を行う場合は残業扱いとしたり、変形労働制で勤務時間を調整を行うことで、職員の研修参加率がアップしている。

また、今年度から研修委員会が中心となりOJTの研修内容を策定し実施しており、新人職員の育成に効果をあげている。

ただし、副施設長は職員の技術水準・専門資格の取得状況について現時点で完全には把握していないと考えている。今後の取組みに期待したい。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

施設には実習の手引きがあり、実習生の心得が詳細に明文化している。
 県内外からの実習依頼があり、随時受け入れており、基本的に学校からの実習プログラムや保育実施要領に沿って実習を行っている。養育・支援については、施設のプログラムに沿い、施設内に宿泊し実習しており、実習後の振り返りは、保育士職員が指導している。
 副施設長は、社会福祉士の実習生研修に関する研修指導者の研修を受講しており、今後は保育士の資格を持つ職員が、保育士の実習指導者研修を受講するよう考えている。今後の取組みに期待したい。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

3ヶ月ごとに発行する施設広報誌“きっずうえいぶ”は、対外業務広報委員会が担当している。
 “きっずうえいぶ”は、市子ども家庭課、社会福祉協議会、法人内認定子ども園保護者、民生委員、婦人会等に配付している。
 また、3年に一度受審している第三者評価結果は、ワムネットに掲載し公開している。
 施設では、ホームページや広報誌を通し、施設運営の透明性と情報公開に努めていることが確認できる。
 ホームページやワムネットに、法人理念や基本方針及び養育・支援の内容を公開している。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○
【コメント】		
施設における事務、経理、取引は 経理規程に則り運営しており、内部監査を定期的実施している。施設では、日本財団や長崎県、大村市の助成金の他、他団体からの支援を受けている。社会保険労務士、弁護士など外部の専門家による監査支援を実施している。会計も外部支援者のサポートを受けている等、外部のアドバイスを基に、経営改善に取り組んでいることがわかる。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】		
運営理念に“地域に根ざした児童福祉”を掲げている。合わせて活動方針の一つに、“地域に根ざした施設を目指す”を含め、地域とのかかわりを具体的に文書化している。 今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から地域との交流が減少したが、これまでは職員と子どもと一緒に地域清掃活動や地域行事に参加している。 買い物や日常的な活動は、各ホームの子どもたちのニーズに応じ、地域の社会資源を活用している。 また、学校の友人が各ホームに遊びに来ており、子どもと地域の交流が広がるよう支援している。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
【コメント】		
施設では、ボランティアの手引きを整備しており、注意事項にボランティアとしての心得を明確に示している。以前、大学生による学習ボランティア(BBS)の受入れ等の事例がある。 ボランティアの受入れについては、事前に内容を精査し検討している。ただし、ボランティア受入れの事前研修やスクーリング体制は十分ではなく、今後の取組みに期待したい。		

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

地域の関係機関・団体について、ファミリーソーシャルワーカーや棟と各ホームのリーダーが社会資源をリスト化し、職員間で情報共有を図っている。
 施設は、大村商工会議所青年部のフラワーフレンドクラブ、ライオンズクラブ、ロータリークラブとのかかわりの他、小学校PTA・小学校区健全育成協議会・大村商工会青年育成会・要保護児童対策地域協議会などとの協議会などに参加している。また、施設に毎年、小学校・中学校の先生と食事会を開催し意見交換を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から中止となっている。
 各団体とのかかわりがあるものの、そのネットワークを活かしたアフターケアへの取組まで至っていない。施設が築き上げたネットワークを有効活用し、施設の特色を活かしたアフターケアへの取組みに期待したい。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

施設グラウンドの遊具を新調し、地域の子も遊びやすい環境となっており、地域住民と日常的に交流していることが見てとれる。
 更に施設体育館は、選挙の投票所や地域のバレーボール等スポーツクラブに体育館を無償で提供している。また、副施設長と職員は、施設内で行っている施設の子どもと地域の子どもが一緒に行う剣西クラブの指導者でもある。
 毎年、小学校の先生を施設に招き施設内見学の後、意見交換する時間を設け食事しながら子どもたちの様子やニーズを聞き取る機会となっている。
 ライオンズクラブや大村商工会議所青年部、学校PTA、小学校区健全育成協議会等と関わりを持ち、地域の福祉ニーズの収集に努めている。
 今年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から、地域の福祉ニーズなどを把握するための取組を縮小しているものの、これまでの活動や取組は施設の特長である。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

法人では、地域のニーズに沿った認定こども園の開設が確認できる。更に、放課後児童クラブ“b&gおおむら”を開設し、地域の子どもたちの居場所づくりに取り組んでいると共に、一般家庭の利用もさることながら、支援が必要な家庭への無償での支援を行っている。今後、法人内の連携を強め、子どもたちの安心安全な環境づくりを目指している。
 地域の防災避難場として、地域からの依頼があり開放した。また現在新型コロナウイルスに保護者が感染した場合の子どもの保護の場として受入れを検討中である。
 地域の福祉ニーズに基づいた公益的な事業・活動は施設の優れた点である。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施
1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○
【コメント】 「子供の家の職員像」を明示し、職員は共通理解している。倫理綱領はホールや玄関に掲示している他、就業規則にも記載している。 年に1度、弁護士を講師として懲戒権など人権擁護に関する研修を行っている。 職員は共通理解をもって、子どものQOLの向上を目指し支援に努めている。一昨年から“生活に関するマニュアル”の見直しを実施しており、年度初めに安心・安全な環境委員会が中心となり、衣類、携帯電話の取扱い等、各ホームの課題を集め、マニュアル作成に反映している。子供向けのマニュアル（おやくそく）があり、各ホームに設置している。マニュアル内容を追加した場合、差し替えて子どもに回覧し確認している。 職員向けの養育マニュアルでは、時折「許可・報告・禁止・～しない」等、子どもの生活を管理するような表現が見られる。ただしヒヤリングでは、携帯電話の使用についての項目は実態にそぐわないという職員の判断から子どもたちと話し合ってルールを決めるなど、細やかな配慮の事例が確認できる。今後は、事例を基に養育マニュアルの表現に反映することに期待したい。		
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○
【コメント】 子どもは入所する時点で児童相談所から権利ノートを得て個人で所有しており、施設では権利ノートを基に説明している。 職員は養育マニュアルを基に子どものプライバシーに配慮して支援している。 各ホームは、戸建ての一般住宅であり、幼い子ども以外はそれぞれに部屋があり自由に過ごせる環境を提供している他、職員は、子ども本人宛ての手紙などは、開封せず本人に手渡している。 現在、地域小規模児童養護施設として建て替えを計画中であり、子どものプライバシーに配慮し完全個室化に取り組んでいることが確認できる。		

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

ホームページはもとより、法人パンフレットは理念や方針、養育・支援の内容などの特性をイラストや写真などでわかりやすく紹介した資料となっている。

子どもの保護の状況に応じてさまざまであり、入所に関して児童相談所が施設の要覧を基に子どもに説明し決定している。また、可能な限り見学などの希望に対応するなど、本人の不安を軽減し入所について自己決定できるよう、養育・支援の実施に関する説明を丁寧に行っていることが確認できる。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

施設では、子どもと保護者の状態に合わせて、面談できる時には生活のルールや支援することなどを説明している。多くのケースは、保護された子どもの状態や保護者の心理面、暴力等問題がある場合であり、説明する機会がなく児童相談所を通じて入所している。

施設との関係性を確保できる保護者とは、今後の方針や進路等で年2回程度面談の機会がある。その他個々の都合、状態に合わせて随時面接を受け付けている。

意思決定の困難な子どもや保護者の場合、施設から具体的な進路の方針を示すこともあるが、基本的には中学校、高校の進路指導方針の計画を中心に勧める場合が多い。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

施設では養育・支援においてその子どもの特性や心理的問題点を考慮しながら継続的な養育方針を定めているが、奨学金の受給に満たなかったり、志望校の不合格等が生じた場合は、随時本人や保護者と話し合いの場を持つよう配慮しフォローに努めている。

子どもたちには担当職員から公立校と私立校の場合の授業料の差異についても説明している。

就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業など、進路決定のための掲載的援助の仕組みなどの情報提供を行っている。

ただし、副施設長はリービングケア、アフターケアについて、まだ取組みが不十分だと考えている。今後、自立支援コーディネーター、職業指導員等の配置・研修に力を入れ支援を行っていくことを検討中である。更なる取組みに期待したい。

		第三者 評価結果
(3) 子どもの満足の向上に努めている。		
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○
【コメント】		
<p>施設では各ホームで問題が生じた場合に個別にアンケートを行い、各々のホーム会議で討議し解決しており、PDCAサイクルが機能していることがわかる。</p> <p>施設として自由度の高い支援を行っているため、子どもから多種多様な要望、意見が出ている。職員は都度、傾聴し工夫しながら、時代と共に変容し多様化する子どもたちの要求に対処している。これまでに設置したWi-Fi利用のルールやカードゲームの個々の管理法を取り決め、子どもにとって過ごしやすい環境となるよう改善に努めている。</p>		
(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
【コメント】		
<p>施設では苦情解決の方法として各ホームや施設全体でも意見箱を設置し、意見箱に苦情解決第三者委員の名前と携帯番号、児童相談所の連絡先を掲示している。また、子どもの権利ノートも設置し、子どもが意見や苦情を表す権利があることを知らせる工夫が確認できる。</p> <p>子どもからの意見や要望、苦情は、職員で構成する安心安全委員会が集約し、毎日の朝会や職員会議で話し合っている。施設内で解決できない場合は、第三者委員会にて検討する他、契約している弁護士を立て解決を目指す体制を整備している。</p> <p>子どもからの意見や要望、苦情を検討した結果は、投稿した本人や保護者にフィードバックし、内容によってホームページの苦情解決コーナーで情報を公開している。</p> <p>施設は苦情解決の仕組みを確立しており、子どもに周知を図ると共に、養育・支援の質の向上に努めている。</p>		

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設では子どもが相談や意見を話しやすいよう、副施設長室、職員室、看護師と心理士の職員室などを利用し、本人が希望する職員等が対応している。子どもが生活する上での悩み、成長する上での悩みなど聞き取っており、些細な問題も全て解決できるように職員全体で取り組んでいる。
意見箱の横には児童相談所から手渡される権利ノートの漢字、ひらがな解説書も設置しており、外部の相談窓口の記載がある。
今までに、子どもから直接児童相談所に相談した例が数件あり、全て児童相談所職員の立会いの下、解決している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設では子どもから相談がある時には、職員が時間を取り傾聴している。その後各ホームで会議を開き議題に挙げて、改善できる内容やルールについては、迅速に改善し本人に伝えている。
また、看護師や栄養士、心理士の職員もホーム職員とは別に月1回のペースで各ホームを訪れ、子どもの困りごと、悩みを直接聞き取り、安心安全委員会で問題点を洗い出し、養育・支援に反映し質を高めるよう努めている。
更にこのような意見や問題点の集約を基に、施設の各マニュアルを更新しており、積極的な取組みは特長と言える。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○
【コメント】		
<p>施設ではリスクマネジメント体制を整備しており、安心安全委員会が防災マニュアルを作成している。本館のホームは月一回、地域小規模ホームは3ヶ月に一回、避難誘導訓練を行い子どもたちの防災意識を高めている。</p> <p>国の施策に沿って小規模化を進めるため、今年度から分園型小規模グループケア、地域小規模児童施設について、順次建替え工事を行うこととしており、使い勝手がよく、より有効な空間となるよう安全確保の観点も含め、施工業者と職員が話し合っている。</p> <p>施設としてヒヤリハットの収集等はデータ化、見える化は積極的に活動していないものの、安心安全委員会が検討会議にて危険箇所を抽出している。また、不審者対策は職員マニュアルに記し、自然災害対策のマニュアルを整備している。</p>		
②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○
【コメント】		
<p>施設では所内で発生するさまざまな感染症のリスクを防ぐため、看護師を中心に安心安全委員会が感染防止マニュアルを作成しており、子ども向けには小さな子どもでも理解できるようイラスト入りの分かりやすい内容となっており、掲示するなど感染症予防の周知を図っている。</p> <p>また、朝会において看護師から今後流行りそうな感染症の種類、防止策のレクチャーを行っている。</p> <p>施設内の看護師が医務室、心理士が心理室と専用の部屋があり、随時体調不良の子どもの相談を受けられるように工夫している。</p> <p>看護師は、各ホームの子ども全員の健康管理を行っており、状態を把握して症状を判断し、周辺の各医療施設への通院を含め的確に指示している。また、新型コロナウイルス対策として、消毒液の残量を確認し補充するなど援助している。更に各ホームの消毒を徹底し、発生時はフローチャートに従い各職員が行動できるよう整備している。</p>		

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

施設では安心安全委員会が中心となり、毎月の各ホームの避難誘導訓練とは別に、年一回消防署と合同で消防訓練を運動場で行っている。
 合同訓練にて消防士の施設内整備の指導を受け、防火カーテンへの掛替え、避難誘導路にある不要のタンク、廃材の撤去等を行っている。
 体育館の建物が堅牢なため、災害時に地域の避難所とすることを現在検討中である。
 緊急時のための食品備蓄リスト及び賞味期限の確認、買い揃えるなどの対策も行っており、手順等は火災時の避難誘導マニュアルに記載していることが確認できる。更に、水や食料、袋状の簡易トイレ等2日分の十分な量を備蓄している。
 災害発生時においても養育・支援を継続するための事業継続計画に沿った準備を行っていることは、特筆すべき点である。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

施設では職員が養育・支援に活用する職員向けマニュアルを整備しており、各ホームに設置している。新人職員には本マニュアルを基には副施設長が説明している。
 更にこのマニュアルは安心安全委員会が職員会議や朝会で繰り返し説明し、周知徹底を図っている。
 その一例が前向き子育てプログラム“Positive・前向き” “Parenting・子育て” “Program・プログラム”の頭文字Pを取ったトリプルPや、子どもの発達促進や行動改善を目的とした保護者向けのプログラム ペアレントトレーニングなどで定期的に行っている。
 また、各ホーム会議ごとに振り返り検証を行い、個々の子どもの最適な道筋を確認しており、高く評価できる。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

安心安全な環境委員会が年度始めにマニュアルの見直しについて何を重視して見直していくかを検討し、取り組んでいる。基本のマニュアルを基に、時代に合わせて携帯電話の使い方などがある。委員会で検討し決定したものは、各ホームに送り検閲を重ね結果を委員会に戻しており、更に検討して決定している。現場で活用するマニュアルは、現場の声を重視し、ボトムアップの仕組みによるPDCAサイクルが稼働していることは、優れている点と言える。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

自立支援計画策定の責任者は統括主任である。現在、統括主任は病気療養中のため不在であるため指導員が統括主任の業務を代行している。
 年度ごとに担当職員を中心に一人ひとりの子どもに合わせ自立に向けた支援計画を作成している。年度初めに目標設定し半期ごとに評価を行う他、年3回自立支援会議を行う仕組みがある。
 自立支援計画表には本人のニーズや養育・支援の内容を明示しており、半期ごとのモニタリングと目標達成度を確認していることが確認できる。会議には担当職員と管理職の他、心理士や看護師等参加している。
 子ども自身の状態や環境、保護者の状況も含めた支援困難ケースが発生した場合は、その対応を職員間で検討、共有し問題解決に努めていることは、特長である。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画表には本人のニーズや養育・支援の内容を明示し、半期ごとのモニタリングを行い目標達成度を確認している。

施設では、共通の様式で子どもの毎日の様子を記録している。記録内容を施設生活・学校関係・病気やケガ・家族関係などの項目に分け、記録者を明記しており共有フォルダにて全職員が確認できる仕組みがある。

自立支援会議には担当職員と管理職の他、心理士や看護師等参加している。会議録を共有フォルダに保存し、共有課題として認識し職員は指導にあたっている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

施設では職員間の情報共有のため、3年前からパソコン上に職員用共有フォルダを作成し、施設内の子どもの自立支援計画書や問題行動、注意点等の情報を閲覧できるよう仕組みを整備したところ、業務の効率化が進み、合理的に情報を共有することが可能となっている。

また、会議に参加していない職員や新人職員なども各会議の議事録を閲覧できることで、施設の全体の流れを確認できるようになり、施設全体の意思統合と運営の方向性なども共有できるようになっていることは、大いに評価できる。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○
【コメント】		
<p>子どもの育成録はパソコン内の共有フォルダにて管理しており、記録を行う際は施設内のパソコンを使用し、USBメモリ等の媒体での持ち出しは禁じている。各ホームで使用するパソコンや書類は、所定の場所で管理している。また、施設は職員の守秘義務についても周知徹底を図っている。</p> <p>サービス規定にて個人情報保護規定が確認でき、管理体制を築いている。ただし、子どもの記録の保管、保存、廃棄などについて、保管場所や保管期間及び保管する情報内容の精査基準などの整備が、今後の課題と感じている。職員によって偏りが生じることないように、子どもに関する情報管理体制の整備に期待したい。</p>		

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	c
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○
【コメント】		
<p>施設では、職員向けマニュアルにて子どもの権利擁護に関わる規程を整備しており、朝会や全員ミーティングで職員の理解を図っている。ホーム直接処遇職員3人体制を整えると共に、子どもに関する事案専門の弁護士による研修を実施していること等、権利擁護を意識した養育・支援を行っていることが見て取れる。</p> <p>ただし、施設では、職員の職務遂行能力と児童養護施設に勤める職員としての倫理感、姿勢に厚い信頼を寄せており、職員による権利侵害を想定した規定は確認できない。今後、さまざまな状況を想定して対応できるよう検討を重ね、子どもの権利擁護・権利侵害防止について更なる取組みに期待したい。</p>		

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

施設では子どもの権利擁護についての規程を職員向けマニュアルに記載し、朝会などで職員への周知を図っている。子どもは権利ノートを入所時から携帯している。施設では、ホームごとに担当職員が子どもの年齢や生活状況に応じ、権利ノートを用いて個別に話す他、小規模ホームによっては意見箱を設置している。子どもがホーム職員に言いづらいことがある時には、棟リーダー、心理士、看護師などが対応し、話しやすい環境を作っている。療育手帳を持っている子どもや支援学校に通学している子どもについては、それぞれのホームで子どもの思いに寄り添い支援している。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

施設では、行事ごとに写真を撮り、アルバムを作成している。撮った写真を保護者に送り、手紙を添えて生活の様子を伝えるよう工夫している。職員がアルバムを作成する時には自然と子どもたちが集まり、語り合いながら生活の様子を振り返っている。以前居たホームで作ったアルバムを持参してきている子どももあり、生き立ちを振り返ることができている。

一人ひとりの家庭環境や成育歴、子どもの状況などに特別な配慮が必要なことがあり、子どもに生き立ちなどをどう伝えるか不安な時は、担当職員がホーム長と相談し個別に検討し支援している。

次年度は、ライフストーリーワークへの取組みを予定している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自ら訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

施設では職員向けマニュアルを策定し、生活場面に応じた子どもとのかかわり方や虐待等について具体的な例を示し、職員の対応・心構えを定めている。朝会や全員ミーティングの際に周知を図る他、施設内研修として子どもに関する事案専門の弁護士による勉強会や“被虐待児童指導処遇検討会”等を行っている。
 また、心理士や看護師が中心となり、性教育マニュアルに沿ってプライベートゾーン・相手との境界など、子どもの心と体を子ども自身が守るための知識を教えている。
 意見箱や相談室の設置、メンター制度などによる自浄機能を備えているものの、ホームの小規模化・分散化が進む中、子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見のため、職員の子どもに対する関わり方の可視化等が必要であると思われる。今後の更なる取組みに期待したい。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

ホームでは、決まった曜日に当番を割り当てて子どもたちと職員が共に整頓・清掃を行っている。居室はプライバシー空間であるため、職員が機会を捉えて子ども自身で掃除をするよう声を掛けている。
 学習・余暇の過ごし方・携帯電話の使用ルール、ゲームの時間、小遣いの使い方等を職員向けマニュアルで定めている。小遣いは子どもの育ちに応じて渡し、貯金の仕方について職員が相談に乗ることもある。
 子ども施設内での所持金に関しては、各個人が小遣い帳に記入する他、預金通帳の残高など職員が確認するルールがある。年齢に応じ職員と銀行に出向き通帳を記帳するなどの工夫を通して、金銭感覚を身に付ける機会を設けている。また、ホームごとに家族会議を開き、生活における問題点を話し合っている。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

入所時には児童相談所からの情報やアセスメントに基づき、本人に適したホームの選定等を行っている。居室は、ひとり部屋を基本とし、子どもの趣味嗜好に応じて整えることができる。
施設では一人ひとりの育成録を作成しており、子どもの毎日の生活の様子を担当職員が記述している。この育成録は、家庭復帰や施設変更の際に役立っている。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	

【コメント】

施設では、子どもの希望に応じてアルバイトを認めている。時にはアルバイト情報誌等を見て職員が相談に乗るなど、一人ひとりの状況に応じた自立支援を行っている。
進学や就職等の進路相談は学校で行うことが多いため、施設では現在、退所に向けての支援プログラムを策定していない。職業指導員の配置も検討しており、アフターケアについては今後の取組みが待たれる。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	
【コメント】		
<p>施設では、各ホームの担当職員が子どものケアを行っている。一人ひとりの子どもに応じたきめ細かいサポートを行っていることが、職員へのヒヤリングや育成録の記述から確認できる。</p> <p>また、心理士が子どもの特性に応じたソーシャルスキルトレーニングを行っており、子どもの心を理解して感情の表出を促し、適切な言動へと導く助けとなっている。</p> <p>施設で利用者アンケートを定期的に行っている様子はないものの、職員が子どもとの日々の対応の中で、信頼関係を築いていこうとする姿勢は高く評価できる。</p>		
②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○
【コメント】		
<p>家族会議はホーム内で行い、子どもたちの欲求を聴取し把握している。最近では子どもの日程が合わず、毎月の開催が困難となっている。</p> <p>職員は、子ども一人一人と話す時間を重要視しており、休日は、一緒に買い物に出掛けたり、自室でゆっくり話す時間を設けている。職員が聞き取った子どもの思いは育成録に記録し、重要な事項は棟リーダーや副施設長と共有している。</p> <p>日常の決まりごとは、各ホームでルールを作っている。例えばおもちゃの管理、携帯電話やインターネットの使い方など、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重している。</p> <p>宿直室は夜間でも照明を点け、子どもが不安になったらいつでも職員が対応できるよう配慮している。</p> <p>職員は子どもの基本的欲求を満たすよう努め、子どもと共に日常生活を構築している。</p>		

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に把握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもが自身でやらなければならないことやできることは、職員は見守っており、子どもがつまづいた時には本人の思いを聞きながらサポートしている。
 例えば、学校生活や部活でいい結果が出せなかったり、友達とのトラブルがあった時などは、職員はドライブに誘い一対一で話せる機会を設け、日常と違う空間をつくることで、本人の気持ちがクールダウンできるよう支援している。また、イライラする原因を一緒に探り、解決に向け取り組んでいる。
 施設では、学校への送り出しから迎え入れまで、同じ職員が行うことで、子どもたちの表情の差異に気づき、援助できるよう工夫している。今後職員が3人体制になり、一層子どもの想いを十分に把握できる体制となる予定である。
 施設では、子どもの力を信じ見守る姿勢を大切にしていることは、特筆すべき点である。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

各ホームでは子どもの年齢や発達状況に応じたプログラムの下、療育手帳を所持している子どもや特別支援学校に通う子どももおり、個別に養育・支援を行っている。
 玩具は個人で購入し保管している他、書籍は子どもが興味のあるものを施設で準備している。職員は子どもたちの会話に入りながら、子どもに必要な学びや遊びなどの情報を収集している。決まりに捉われ過ぎず、筋を通しながら、子どもの甘えを受け止め、関わりを持つよう努めている。
 障害のある子どもには、本来持っている手先の器用さやバランス感覚の良さなどを見い出し、本人に合った玩具等を提供し支援に繋げている。
 全ての子どもに、ここは安全な場所であることを伝えながら、発達に応じた学びや遊びの場を提供していることは施設の特長である。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

職員は、子どもが規則正しい生活を送るために必要な生活習慣を身に着けるよう指導している。子どもと職員は、各ホームの家族会議で話し合い、生活上のルールを作っている。ルールは、子どもがわかるよう子どもの視点で表現し掲示している。毎年、子どもが被害や事故に巻き込まれないよう、中高生向けに携帯電話による詐欺被害やSNSを使用する際の注意点などメディア講習会を開催している。その他、子どもが社会常識及び社会規範を習得し、就職や進学で退所後に生活に困ることがないように、指導していることが見てとれる。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気ですぐに清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	

【コメント】

施設では各ホームでメニューを決め、調理職員もしくはシルバー人材の職員が調理を行っている。各ホームの家族会議で、子どもたちのリクエストを収集し献立に取り入れており、誕生日会や行事食もそれぞれホーム毎に行っている。食物アレルギー疾患に対応した配慮もある。各ホーム、年齢差があり学校やクラブ活動などの時間に合わせた食事時間となっている。食事時間がずれても、おいしく食べられるよう電子レンジで温め提供している。調理職員が休みの日はホーム職員が調理しており、子どもが手伝うこともある。施設は栄養士を配置し、全ホームの様子を管理している。ただし、急速に小規模化が進むことで、施設としての食に対する取組み状況に差異がある。また、検食日誌があり、献立と担当者、赤黄緑の栄養バランスのチェック表に記録しているものの、検食後の感想や意見の記載はない。毎日の食事は子どもの心の育ちや安定について重要な役割を担っている。施設ならではの良さを含め、栄養士を中心に食事について検討を重ね、子どもが美味しく楽しみながら食事ができるよう取組みに期待したい。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子ども一人ひとりの衣類は季節や体形に合わせて購入しており、衣類台帳で管理している。衣類は、子どもの好みを優先し服を選び、個性に合ったものを購入している。中高生になると、自身で購入することもできる。
各ホームは洗面所に洗濯機を設置しており、平日は職員が洗濯やアイロン掛け、裁縫などを行っており、休日には本人に衣類の整理・保管などの衣習慣を指導している。中高生は好みの洗剤や柔軟剤があり、自身で洗濯するよう支援している。
職員は、子どもが衣習慣を習得し、適切に自己表現ができるよう支援している。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設では子どもが居心地よく過ごすことができるよう、生活環境を整備するよう努めている。本館の各ホームは個室を確保しており、地域小規模ホームは個室の確保が課題であったが、現在建物の整備も含め改築を行い、個室化が進んでいる。
現状、相部屋であっても学習机やベッドの配置を工夫し、個人のスペースを確保していることが確認できる。
衣類や日用品、おもちゃなど所有物は自分で管理しており、管理方法は各ホームでルール化し、職員は見守りながら支援している。
大掃除の時は、生活の場が居心地のいい環境となるよう男子棟では障子や壁紙の張替えを子どもたちが行っている。
施設は各ホームが子どもにとって安心・安全を感じる場所になるよう職員が配慮していることがわかる。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

年2回健康診断があり、内1回は学校、1回は施設で嘱託医が行っている。診断結果は看護師が管理している。病院受診が必要な場合、職員が受診に付き添っており、看護師がフォローに入ることもある。心理面に関する病院受診の場合は子どもの担当職員が受診対応している。服薬がある場合、各ホームにて薬を管理している。自立支援計画の検討会に、看護師も参加し健康面のアドバイスを行っている。看護師は、緊急時フローチャートの作成や新型コロナウイルス感染予防対策のマニュアル作成などに参画し、専門家としてアドバイスしている。健康・医療に関する最新情報は、朝会で報告し資料を配付している。看護師は不定期に各ホームを訪問しており、感染症予防対策の消毒液の補充状況や子どもの服薬状況を確認し職員に指導している。ただし、ホームによって感染症予防対策の取組み状況が異なっている。施設として子どもの心身の健康を管理する上で、ホーム毎の取組状況を把握し、差異がないよう仕組みづくりに期待したい。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

施設では性教育について性教育プログラムに則り実施している。子どもが集中できる15分から30分を目途に3、4人の少人数制でホーム毎に行っている。性をタブー視せず、年齢別に看護師、心理士を交えて分かりやすく解説している他、妊娠、中絶や性病といった講義や性情報とその罠などの解説も行っている。職員が受講する長崎大学主催の性教育プログラムの研修内容を参考に、職員や心理士と看護師が子どもの現状に応じてグループ分けしている。更に、その結果を基に年齢、発達に応じて教育プログラムを作成していることが確認できる。施設として、子どもが性を尊重する心を育てよう、正しい知識を得る機会を設けていることは高く評価できる。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設では子どもの暴力、不適応行動について、職員朝会や全員ミーティングなどで情報共有しており、問題が起きる前に配慮するよう努めている。担当職員は子どもの行動や言動に注視し、周りの職員と連携して指導にあたると共に、メンター制度を活用しさまざまな職員や心理士からアドバイスを受けている。
 新人職員の場合は施設内のアフターフォロー研修を受け、現象面に対して適切な援助技術を習得できるよう学ぶ機会がある。
 子どもの暴力や不適応行動についてケース検討会を開き、子どもの現状分析を行い、多数の職員のアドバイスを受けている。それでも暴力、不適応行動が繰り返される場合は児童相談所、専門医療機関、警察と協議を重ね、事態収拾の努力を続けるなど適切に対応していることは特筆すべき点である。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっていく。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設で子ども間の暴力が発生した場合は、職員向けマニュアルに従って対応している。
 身体的虐待、暴力が発生した時には、まず担当職員が事態を収拾した後、当該者が精神的に高揚している場合にはタイムアウトを用いて落ち着かせ、その原因を探し出すようサポートしている。
 職員は、職員向けマニュアルに定めている「体罰は絶対に行わない」というルールを厳守している。
 また、職員に対する子どもからの暴言、暴力がある場合も心の余裕を持つよう努め、更にメンター制度を利用して先輩職員に相談しており、職員自身が抱え込まないように施設として対応している。
 心理的虐待の場合、職員による感情的叱咤や威圧的態度、男女の差で区別する等は職員向けマニュアルにより固く禁止している。こちらもタイムアウトを取り、原因を探り時間をかけて解決への道を目指すこととしている。
 課題がある子どもについては、入所時から児童相談所と連携して対応しており、事前に副施設長、ホーム職員が子ども本人の相談を受ける体制を整えていることは優れている点である。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

施設では心理療法専任の心理士を配置し、子どもの心理的ケアにあたっている。心理ケアを必要とする子どもは年々増えており、本人に応じた自立支援プログラムの策定にも参画している。

子どもによっては、描画などで問題の起因を探る方法であるソーシャルスキルトレーニングを実施している。最近では感覚統合に問題がある場合も多く、感覚統合療法も行っているものの、その設備と実施は十分とは言えない。

心理士は、職員のスーパーバイザーとなりスーパービジョンを行っている他、外部の専門家によるスーパービジョンを受ける体制も確保している。職員のストレスケアとして、子どもから離れた別棟を利用していることは、特長である。

更に、椿の森学園の専門医等が定期的に来訪しており、心理士は専門医から助言や指摘などの指導を仰いでいる。

心理士は子どもと保護者の面談に立ち会い助言援助を行う場合もある。

年2回のケース検討会議にも椿の森学園の心理士が出席しており、より高い専門的立場からの助言を支援に活かしている。心理士を中心に子どもの心理的ケアと職員のストレスケアに取組みは優れている点である。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

施設では学習環境の整備に努めている。全員が1人になれる部屋は不足しているものの、大舎棟の応接室では終日学習できる空間がある他、各ホームのリビングや自室など子どもたちは工夫して勉強している。

本人のペースで学習することを基本に据えている。公文学習を希望する子どもには、職員が指導者となり子どもに学習を教えているが、その割合は年々減りつつある。

近年、精神面で不安を抱える子どもが多く学力低下傾向であるため、周辺の学習塾の紹介も含めさまざまな機会を子どもに提供している。

家庭の事情で今まで学習する機会がなかった子どもにも、各ホームで一定時間勉強する習慣を身に付けるトレーニングを行う等、基礎学習の回復に向けて支援している。例えば、各ホームでは宿題は帰宅後に済ませて遊びに出すなどのルールを取り決め、指導を行っている。

施設では、子どものニーズに応じた学習環境を検討しながら、学習支援に取り組んでいることが確認できる。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもの進学、就職などの進路に関して、基本的には現在通っている中学、高校の進路指導を優先している。更に、施設として状況が可能な場合は子どもと保護者を交えて3者面談を行い、場合によっては児童相談所も入っている。面談では子ども本人の希望を聞き出し、その方針に沿った資料を収集したり、各種奨学金の制度説明を行い、本人の判断材料となるよう支援している。

就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業など、進路決定のための経済的援助の仕組みなどの情報提供も行っている。

受験失敗などの場合、ホーム職員や心理士によるフォローアップの体制も整えている。

施設では、里親制度に関して里親支援専門相談員を設けており、里親研修など希望者に向けて行う予定であり、これまでに1件、幼少期の子どもとの縁を成立させた事例がある。施設が子どもの将来を見据え、最善の利益にかなうよう支援に努めていることは高く評価できる。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設では、社会体験の一環としてのアルバイトの機会を認めている。

ただし夏休みや冬休みの長期休暇中のみであり、職員がアルバイト情報を調べて提供している。

高校生以上であっても、居酒屋等の酒類販売やコンビニ等の深夜のアルバイトは禁止している。それによる収入の目安を一定額を定め、その使用法は子ども本人の自己決定に任せている。今までの例として年賀状の仕分け作業などが挙げられる。

職場実習や職場体験は学校が指導しているため、施設としては行っていないものの社会経験の拡大などの目的で推奨している。

また、これまでに特別支援学校に通う子どもが職場体験を通して就職した事例がある。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

施設では家庭の暴力、育児放棄等の例を除き、面接可能な保護者の場合、家庭支援専門相談員や担当職員が家庭訪問を実施している。更に、子どもとの交流や家族としての再構築の可能性を検討するため面談も行っている。保護者の生活環境に変化が見られた場合は児童相談所へ連絡し、今後の方向性を相談している。

家族面談の実施時期は夏季冬期の2回であり、職員は保護者の状況や家庭環境も含めて、本人が家庭に復帰した場合の問題点も注意深く観察を行っている。

子どもが一時帰省をする場合も事前に安全に帰省できる状態か職員が調査しており、その際保護者の精神状況や経済状況も把握している。自宅で過ごし施設に戻った時に身体的暴力の跡がある場合は児童相談所や警察、関係各省市庁へ通報するように定めているが、今までにその例はない。

施設は保護者に子どもの運動会や授業参観、行事予定等を電話で連絡している。施設は家族との信頼関係づくりに可能な限り取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

施設では家庭支援専門相談員が中心となり、ホームでの養育の在り方も含め、実際の家庭復帰の実現に向けてあらゆるケースを想定し、現実的な取組を行っている。

職員は家庭復帰に向けて、ホーム内での子どもの様子を観察し、家庭へ帰ることは可能かを確認している。また、可能な場合は家庭訪問を行い、実際に家庭での子どもの受入れが可能か確認を行っている。

児童相談所とは密接に連絡を取り合い、子どもの家族復帰に向けた支援方法を検討している。

現在、一定時間施設で行う親子生活訓練、関係修復、継続、養育力を見る家族療法のシステム構築を模索している。今後の取組みに期待したい。